

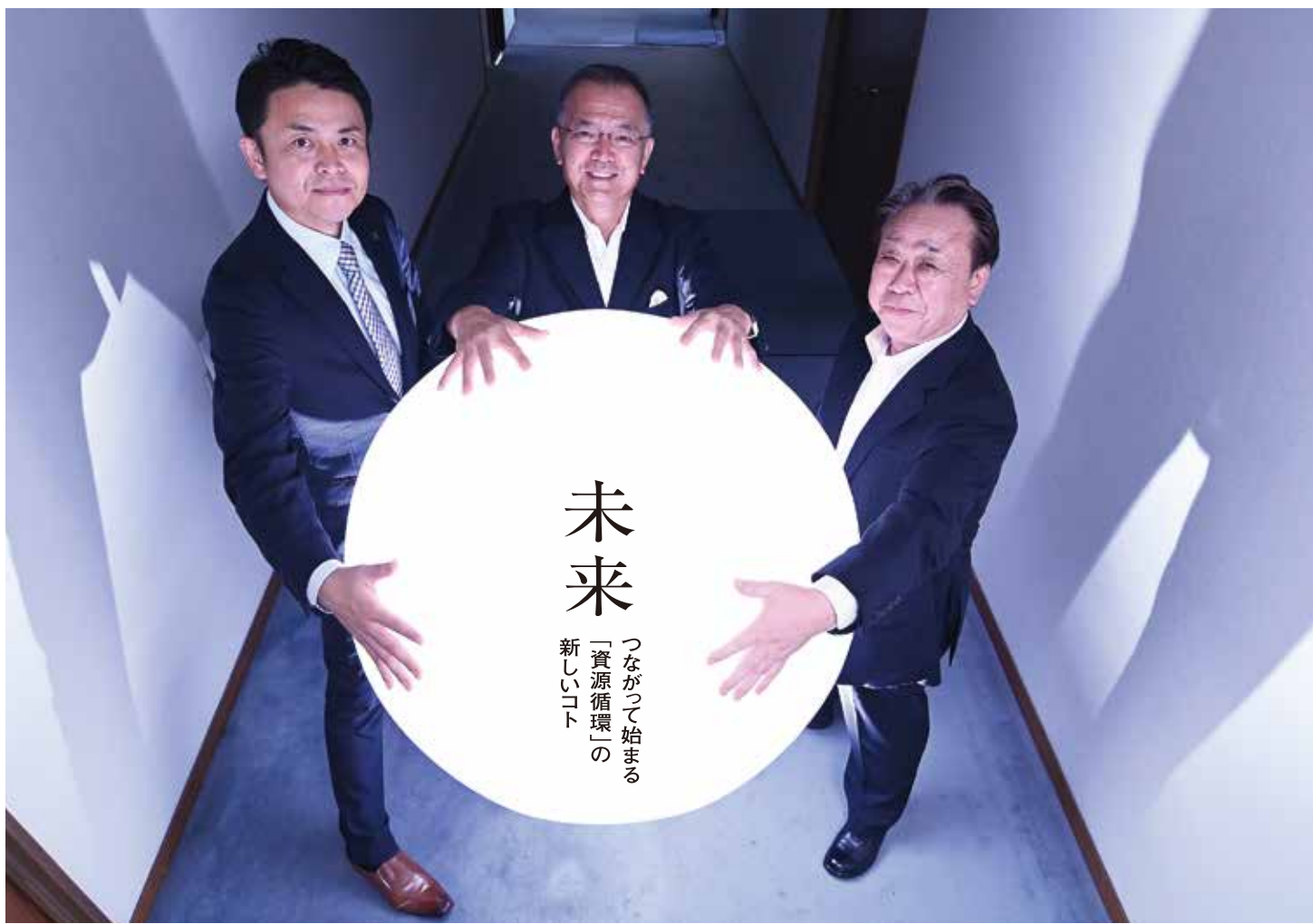


食品リサイクルループ 加速する手がかり

食品のリサイクルループから生まれる「コトの始まり」。食品残さのリサイクルを手掛けるウム・ヴェルト(本社・加須市)の矢島孝昭社長と、食品スーパーを展開するケンゾー(本部・羽生市)の木村健造社長を交えて語り合った。

悲願の日本一へ。角田守良市長は、資源ごみの分別強化と生ごみの減量化推進の旗を振る。生ごみの減量化は食品ロス削減につながり、飼料や肥料への資源化は加須の新しい魅力を生み出す可能性を秘めている。

加須市はリサイクルの優等生だ。リサイクルによって資源化したごみの割合を示すリサイクル率。環境省が人口10万人以上の自治体を対象に行った集計で、加須市は8年連続で全国上位5位以内を果たしている。



未来

つながり始める「資源循環」の新しいコト

リサイクル起点に循環型地産地消を 矢島

角田 ごみの減量は、処理費用の抑制につながります。加須市民が排出するごみは1人1日約1キログラム。統計方法に違いがあるため、一概に比較はできませんが、全国的にみても決して少なくはありません。処理費用は年間約1億7千万円にもなります。ごみの主な処理は焼却ですが「燃やすごみ」の量を減らすことが重要です。

その削減にもつながります。木村 食品ロス削減は、食品スーパーにとっても重要な課題です。50年ほど前、若手のしまい仕事は魚のあらを養鶏場へ運ぶことでした。煮て佃にするためです。卵をいただくことがあった。そのおいしさを今も忘れません。その日にさばいた新鮮な魚のあらを食べて育っているわけですから。

す。食品残さを飼料化、肥料化し、それらを使って養豚や長ネギなどを生産しています。さらに、農産物は運営する道の駅「かさわたちせ」で加取販売するなど、目指すのはリサイクルを起点とした「7次産業化」。周辺地域の中で循環する仕組みです。

食品リサイクルループを実現する ウム・ヴェルト株式会社

廃棄物リサイクル業。本社・加須市栄。ウム・ヴェルトはドイツ語で「環境」の意味。農業法人を設立して農業や養豚を始めるなど、6次産業と食品リサイクルを組み合わせた「7次産業化」を進める。2020年、第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞受賞。2021年、「彩の国埼玉環境大賞」事業者部門大賞受賞。2022年、創業30周年を迎えた。



資源循環の仕組みを地域の魅力に 木村

角田 自宅のごみ出しは、私の役割です。きちんと洗えば「資源ごみ」に出せる、と妻に時々しかられます。ごみと資源の分けかれ目は、私たちの廃棄物の仕方にあります。

その輪をつなぐために、私たちには廃棄の仕方や廃棄後にまで意識をかける責任があると感じます。



この取り組みが全国へ広がるかもしれません。主体になるのは全日食チェーン。弊社も含めて、全国1600店が加盟しています。ペットボトルをベットボトルへリサイクルする画期的なもので、近く稼働する予定です。

食の食材などのほか、地元のレストランにもご利用いただいています。地元産ならではの新鮮さ、しやしきやきとした食感が好評です。

には、製造配送経費と取扱店徴収手数料のほかごみ処理手数料が含まれる容量に応じて価格が異なります。ごみ袋を有料にすることで、袋の購入を控える動機づけが働き、減量や分別につなげる狙いがあります。



角田守良さん 加須市長



矢島孝昭さん ウム・ヴェルト取締役副社長



木村健造さん ケンゾー代表取締役

6th Season ポンコツエコエッセイ 第32回

文・絵 和田琢磨

秋突入ですね。みなさんにやっとご報告ができることがあります。わたしは「にゃんたぶう」というユニットのたくまんとして、うたのおにいさんとしても活動をしています。

子どもから大人まで楽しめる地域活性化プロジェクトが話題になり、知事から「勝手に埼玉応援隊」を任命されて、埼玉を盛り上げる楽曲をたくさん発表してきました。

にゃんたぶうのユニットコンセプトは「美しい未来をこどもたちへ」。エコをわかりやすく学ぶ(エコうた)を歌っています。

結成14年、昨年メンバーが抜け、存続が危うい時期がありました。しかし、この度、新メンバーに「にゃんプリン」が加入となりました!

ゆるキャラとのハイブリッド型。ねこみみがついたかわいくて、美味しそうなおプリンちゃんです。趣味は高

ボクラの未来のSDGs! にゃんプリンってナニモノ?!

速草むしり、特技は利き性、性格は曲がったものは直さない、と本人は言っており、ははは。にゃんプリンと一緒に、にゃんたぶうが再始動します。

新曲は原点に戻って、地球を取り巻く問題を取り入れた「ボクラの未来のSDGs」。

貧困、紛争、気候変動、感染症など世界には多くの課題があります。それらを解決して持続可能な社会を目指すのがSDGs。でも、子どもたちにはわかりにくいです。そこで、17の開発目標を歌にして、子どもたちと一緒に考えていきます。

この曲で企業や団体、学校など、多くの人とコラボしたいと思っています。「ボクラの未来のSDGs」。未来のために、地球のために、子どもたちのために、愛するもののために手をとり合っています。

SDGs SDGsみんなで覚えちゃお! SDGs SDGsみんなで行進だ!

曲をフリーでダウンロード出来るように準備中です。MV(ミュージックビデオ)も、このエッセイが掲載される頃にはアップされているはず!

新しい希望ある世界のために、あきらめない「にゃんたぶう」をあらためてよろしくお祈りします!



【プロフィール】わたたくま 音楽アーティスト。蓮田市出身。バンドSweet Beat Swing(後のSweBe)としてメジャーデビュー。NTV系「THE夜もヒッパレ」にレギュラー出演したほか、数々のCM音楽も手掛ける。現在はソロ活動のほか、にゃんたぶうのメンバーとして活動の幅を広げている。勝手に埼玉応援隊、はすた広報大使、埼玉新聞環境キャンペーン「エコ員」広報大使。